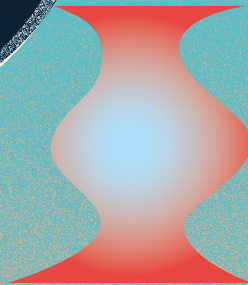
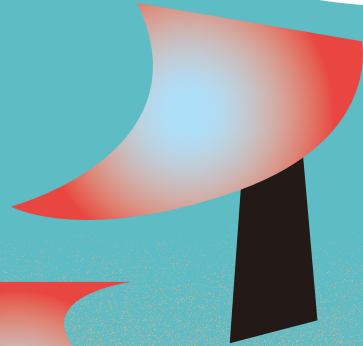
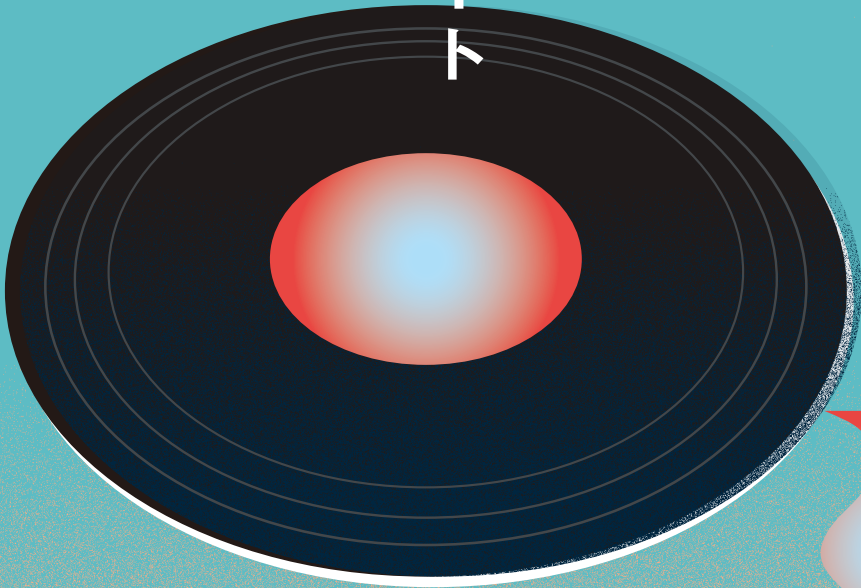
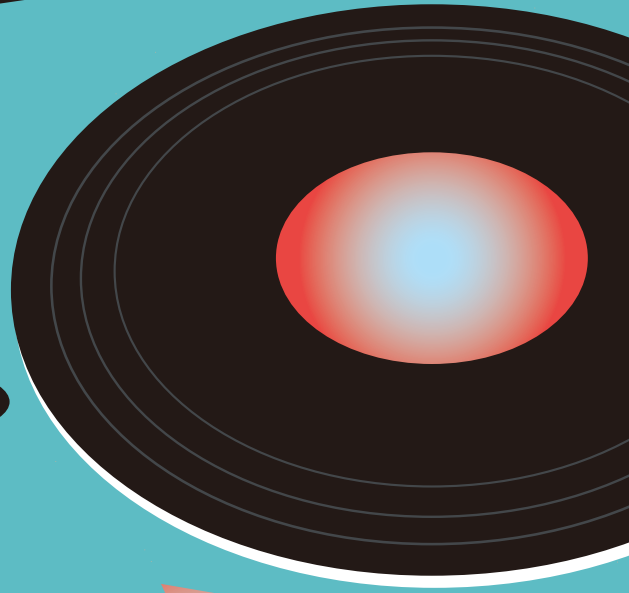
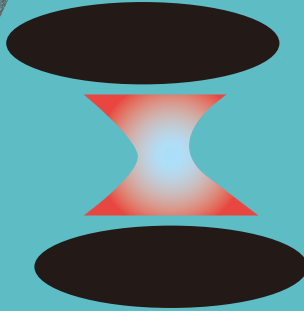
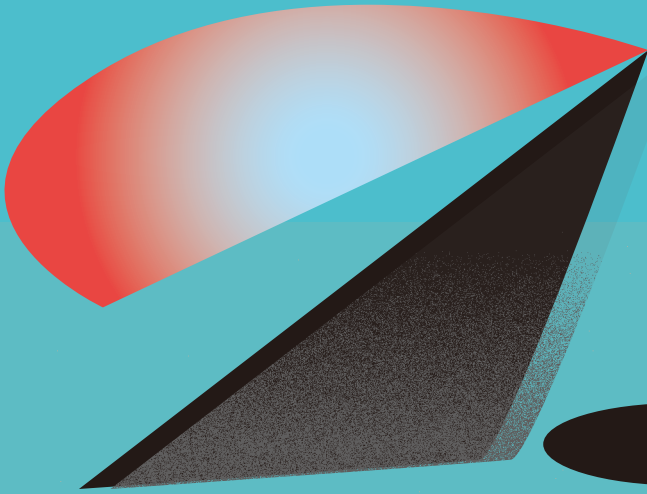


TURN LAND

プログラム 2025

フェイト





# AURORA FLOOR

宇宙人が集う社交場

## 「オーロラ・フロア」



アーティストの大黒健嗣はフェイトに通い、音楽に身を委ねることで心を通わせるダンスフロア企画を重ねてきました。送迎に同行し、職員や利用者の日常に触れ、自身の拠点に職員を招き意見交換をしながら、障害の有無を超えて誰もが参加できるプログラムを開発していきました。誰もが「宇宙人」として参加できるこの場は、「宇宙港」のイメージを分かち合いながら、障害が大事にならない、緩やかなネットワークを広げる機会になりました。

参画施設

## フェイト

杉並区にある放課後等デイサービス。障害のあるこどもたちの放課後や長期休暇の居場所を運営している。日々の活動を通じてこどもたちの個性に寄り添い、豊かな経験を提供することを目指している。

## PROJECT MEMBERS



大黒 健嗣

Kenji Daikoku

現代の都市を舞台に、アートプロジェクトを通じて新しい価値観やライフスタイルを提案し、実践するアートプロデューサー。表現を通じて多様な人々との関わりを生み出し、その場の持ち味を活かした環境を構築するアーティスト。「我々は宇宙人だ」という事実をいかに日常的な感覚に落とし込めるかを全ての活動の軸としている。



TURN LAND プログラム事務局  
一般社団法人 谷中のおかって  
Yanaka no okatte

多様な人々がアートプロジェクトを運営する際の伴走サポートや、より多くの人々が個々のアーティストの世界観に出会い協働できるような状況をつくるチーム。

1分間の  
活動紹介動画



5月

### 企画会議

大黒とフェイトが交流を始めて4年目。互いに一歩踏み込んだ形でプロジェクトを形にしていきたい思いを語った。

9月 七夕

### 利用者との交流

プロジェクトの協力者たちも、数人ずつ、大黒と一緒にフェイトに行き、利用者たちと遊んでコミュニケーションや配慮の感触を掴んだ。

10月

### 衣装制作と踊りの練習

9月からは毎週集い、衣装作りや踊りの練習などをして、いい感じのダンスフロアの空気感をつくる準備をした。地域の人から古着の寄付があった。

11月

### フェイトの音楽週間に参加

利用者たちと一緒に宇宙での暮らしを想像したり、帰りの会で歌う手遊び歌をみんなで歌って録音したり、DJに挑戦したり。ダンスフロアの魅力を多角的に体験した。

12月

### 本番

思い思いに衣装アイテムを取り替えたり、休みながらその場を眺めたり、再会を喜んだり。ダイナミックに移ろうダンスフロアの躍動感を、初めての人も交えて一緒に楽しんだ。

6月

### 送迎に同行

職員と一緒に大黒も養護学校に利用者を迎えに行った。フェイトでの活動に参加するだけでなく、送迎にも同行したことで、利用者たちの距離はぐっと縮まった。

7月

### アーティストの拠点を見学

職員が大黒の拠点を訪れ、利用者が来られる環境かどうか検討した。職員から施設の「音楽週間」への参加提案があり、大黒はここで地域内外の協力者との集いを重ねる意向を示した。

9月

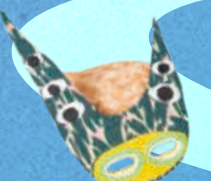
### 企画会議

このプロジェクトをどう地域やフェイトの日常に根付かせていけるかを検討した。地域の中にフェイトの利用者たちが自然に来られる場所をどうつくるかを話し合った。

# 大黒の音楽週間

がでるまでも

アーティスト、施設の職員、利用者の皆さんとの交流がそれぞれの特性を活かしたアートプログラムをつくりあげます。

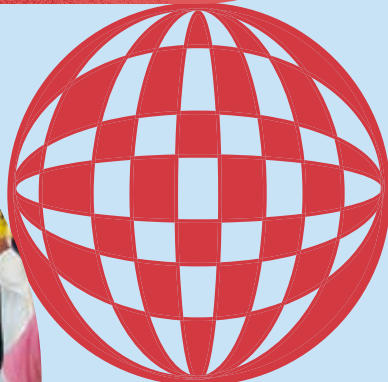
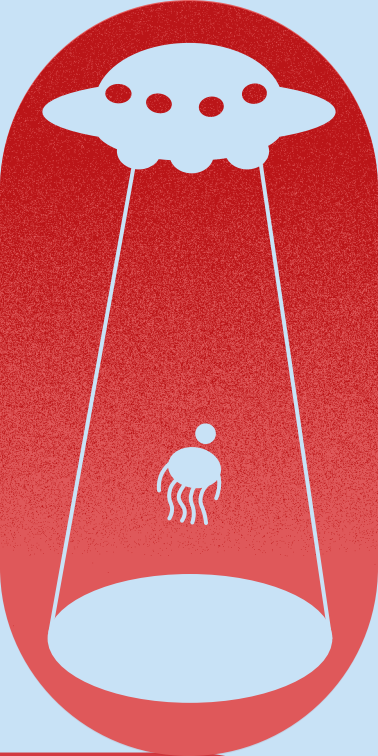


まちなかに  
宇宙人が集う

# ダンスフロア 出現

本番当日、アーティストと  
地域協力者が一緒になって  
「オーロラ・フロア」の会場づくりを  
行いました。

利用者が職員の同伴のもと会場を訪れ、  
大黒たちが事前のワークショップで  
制作した衣装やお面を身にまとい、  
思い思いにダンスフロアを楽しみました。



サングラスをかけて踊る人や、  
タンバリンや手拍子で音を  
鳴らしながら参加する人の姿も  
見られました。



一般参加者が利用者と  
一緒に踊る場面もあり、  
大黒が思い描いていた  
交流の風景が実現しました。



利用者  
にとって

一緒に楽しめる  
友達がまちなかに増えた

職員や保護者以外に施設の日常とまちなかを往来する知り合いが  
増えたことは、とても有意義なことです。新しい人たちと特別な時間を  
共有し、自然と新しいつながりが増えるきっかけにもなりました。

アーティスト  
にとって

利用者の反応から  
プロジェクトが広がった

利用者の素直な反応が、プロジェクトづくりの手がかりとなりました。  
音や衣装、仕組みなど場の環境づくりがうまく働いているかを  
感じ取れ、次に向けた改善点が見え創作意欲につながりました。

職員  
にとって

喜びを分かち合える場が、  
仕事の手応えになった

アーティストやプロジェクトの協力者たちと一緒に、利用者が喜ぶ姿を  
見守れることは、職員にとって大きな手応えでした。喜びを分かち合える  
ことで、日頃の業務の価値や、純粋な喜びを改めて思い出しました。



大黒 健嗣  
(アーティスト)

### 「心地良さを分かち合う喜びがあった」

4年かけて念願の風景が実現しました！障害のある方のための空間ではなく、自分たちにとって魅力的な風景の中に障害のある方も当たり前で、共感した通りすがりの海外出身者もいいね！って言うてくれて。言葉を超えて、心が通じ合いながら共に時間を過ごした喜びは格別でした！



目黒 英之  
(フェイト職員)

### 「本当に一人一人楽しんでいました」

空間の広さや物の配置、過ごし方の選択肢の多さ、間合いの良い展開、全部がちょうど良く、フェイトのこどもたちも本当に飽きずにずっと居られるような素晴らしいダンスフロアでした。大黒さんとこどもたちが関係を築いてきたことが成果につながったと思います。



CHIYO  
(協力者)

### 「4歳の娘と参加」

4歳はまだ何事に偏見や差別がなくフラット。いつもの服装やダンスなどの表現をととても楽しんでいました。こどもから学ぶことが多いなど改めて思いました。私も非日常の時間をとてもワクワク過ごしました！



原 順子  
(協力者)

### 「パーティが世界を変えるかも」

ダンス、ダンス、ダンス♡こどもたちの笑顔が見られて嬉しかったです♡オーロラフロアに難しいルールはありません。あるがままに心と体を解放する。音楽に身を委ねみんなで踊ること。世界を変えることは確かにパーティになるかもしれないって思える瞬間がそこにありました。

# MEMBERS' COMMENTS



岸 雅博  
(フェイト職員)

### 「こどもたちが輝いていました」

去年よりもパワーアップした場になり、こどもたちがキラキラしていました。音楽週間では大黒さんが3日間も来てくださり、普段と違う時間を僕自身も自然と楽しめたのでこどもたちはもっと楽しめたと思います。TURN LANDが福祉施設に もっと広がったら良いと思います！



こばしむう  
(協力者)

### 「何も気にせず楽しめた」

初めは事務仕事としてのつながりしがなく、こどもたちどう関わればいいのか、不安なまま迎えたイベント本番。ダンスフロアが始まると、誰が誰かもわからない状態で、ただ楽しむことができました。何も気にせず心のままに手を取って踊ってみる、そんな経験ができた日でした。



TURN LAND  
プログラム事務局

### 「屋外とは思えないアットホームな心地良さ」

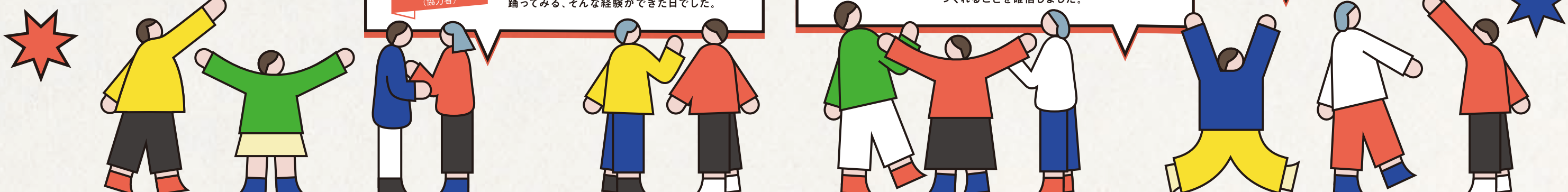
ダンスフロアに行ったことのない人でも自然に混ざりたくなるような場になっていました。小さな交流の場を少しずつ重ねていけば、フェイトのみんなはもちろんですが、卒業生やご家族も来られる開かれた交流の場をつくれることを確信しました。



ノア  
(協力者)

### 「こどもたちとも共鳴できることを知った」

オーロラフロアを通してこどもたちと出会い笑顔と踊りで共鳴し合える事を知りました！踊りたい時に踊って、遊びたい時に遊びたい人と遊ぶ。こんなにも自由でいいんだ！と感じました。



※本冊子に掲載の写真・発言は、各施設・ご本人・保護者の同意のもと記録・掲載しています。

# TURN LAND

## ってなに？

福祉施設などを拠点に  
アートプロジェクトを行う  
文化事業です。

### 誰がやってるの？

東京都、アーツカウンシル東京、一般社団法人谷中のおかってが  
共催する事業です。東京都内にある福祉施設や福祉事業所を拠点に、  
その施設に出入りする人々（職員や利用者、その家族や地域協力者など）と  
プロジェクトチームをつくり、力を合わせてアートプロジェクトを  
企画・運営します。

### どんなアーティスト？

音楽やダンス、演劇、映像、手工芸など  
表現のジャンルはさまざま、その場に関わる人々との  
コミュニケーションを楽しみ、交流を通じた  
新たな手法開発に前向きな姿勢がある。

### なぜアート？

共創型のアートプロジェクトでは、  
「作品」をつくるだけではなく、  
そこにいる人々と「アートなひととき」を  
つくることができます。  
これは文化のアウトリーチでもあり、  
医学的ケアを超えて、誰もが「人」として  
社会参加できる文化的な時間をつくる  
挑戦です。

### なぜ福祉施設でやるの？

障害のある方々が落ち着いて  
時間を過ごせる環境  
(設備や習慣、人との関係)がある。

個々の障害特性と向き合うことで、  
障害をこえて一緒に楽しめる  
プログラムが開発できる。

さまざまな理由で文化施設などに  
行くことができない  
障害のある方たちにアートを届ける。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団  
アーツカウンシル東京、一般社団法人 谷中のおかって  
発行：2026年3月25日  
アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）  
※営利・非営利を問わず、当資料のコンテンツを許可なく  
複製、転用、販売など二次利用することを禁じます。



TOKYO  
METROPOLITAN  
GOVERNMENT



©TURN LANDプログラムの  
公式ホームページ



©TURN LANDプログラムの  
他の活動をチェック

